

身近な生きもの環境と保全と再生

Conservation and Restoration with the Creatures of the Environment

岩崎行伸*

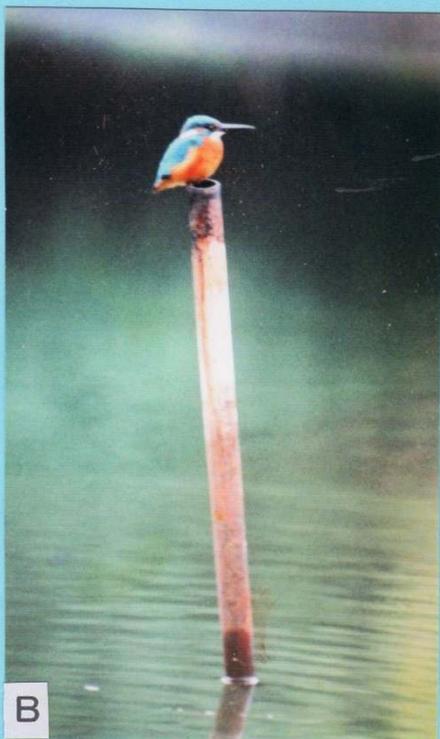
我が国では、野鳥や哺乳類、生物・植物を問わず野生生物の生活はいろいろな形で危機にさらされている。中には絶滅しかかっている種類も少なくない。野生の動植物の生活を脅かしている最も大きな因は土地開発によって棲んでいるところなくなる恐れがある。海や干潟の埋め立てはカモメやハクチョウ、カルガモ・ヒドリガモマガモ等の水辺野鳥の棲息地を奪うことになる。山を切り崩したり、木を切り倒すことで野山に棲む小鳥たちの棲家がなくなる恐れがある。タンチョウが繁殖する北海道・釧路の大湿原も干拓や開発によって脅かされている。野生生物はそれぞれに適した環境で暮らしているため、その棲息環境に変化が生じることが最も大きい問題である。

珍しい生きものや少数の生物の中には法規により保護・保全されているものもあるが、棲息している場所全体が保護されているもの

自然観察記録- I (野鳥)



A



B



C

図1. 身近な野鳥 A: キジ、B: カワセミ、C: ウグイス

Photo by Y. WASAKI

自然観察記録-Ⅱ (野鳥)



図2. 身近な野鳥 D:メジロ、E:ショウビタキ、F:モズ

Photo by Y. WASAKI

は少ない。生活する場所の環境が変化してしまえば生きものたちは

いなくなる。環境の破壊から野生の生きものたちを保護するには、棲息地全域を保護する以外に方法はないのである。

都市の近きには、身近な自然が少なくなっていて、カブトムシやセミを採った雑木林、魚を釣った池や川、そしてバッタを追った草原、田んぼや池・畑・・・。

家が建ったり、道路ができたり、コンクリートで塞がり、それらの自然は、何時の間にかすっかり減少してしまった。そのような中から、ヒトは、自然なしで暮らすことはできない。このままでは、自然の価値を知らないヒトが増加するばかりである。自然保護ができないのではないか？という声が高まってきている。

そこで、自然の喪失が顕著な都市およびその周辺での、身近な自然との触れ合いの拠点をモデル的に整備し、自然観察の森を始め全国10数ヶ所に「自然観察の森」が開設されている。一例として、静岡市の中では自然がよく保たれた「遊木の森」で、ウグイスやホウジロの囀りも聞こえるし、6月にはゲンジボタルが乱舞する。

ここで言う、環境保全とは自然と触れ合う楽しさや自然の素晴らしさを分かち合ったり自然を観察し記録し、保護と保全と再生のための技術とボランティアの支援が必要である。一般人では、野鳥の

好きなヒトのために鳥を観察・鳴き声・探鳥会、植物を知りたいヒトのための植物観察会、ホタルの観察会等々の観察記録をするだけでも多くの生きものの種類の記録が次代に残されよう。

参考文献

- 1) 里山再生 (2003) : (株) 洋泉社、田中淳夫著
- 2) 自然再生 (2004) : 中公新書、鷺谷いずみ著
- 3) 光と影と彩の旅へ (2009-14) : yahoo. My HP 岩崎行伸編集
- 4) 美しい日本の四季・景観と生きものたち (2014-15) : Yahoo blogs.
Photo by Y. IWASAKI

添付資料 (写真)

- 1) 自然観察記録 (野鳥-1)
- 2) 自然観察記録 (野鳥-2)

*塾長、会員 : 自然観察研究会 (水棲 & 環境研究)